

## は し が き

本年度「家庭科定期研修」に参加したかたがたと当センターの担当所員との共同研究を「実践研究集録第11集家庭科編」として刊行いたします。

家庭科教育の指導方法の研究は、小・中ではなかなか活発に行われておりますが、高校では専門分野の教材研究はかなり盛んですが、指導方法についてはやや不足しているように思えます。しかし、質的に多様化する生徒と教育の現代化に即応するために、高校家庭科における指導法の研究の必要が痛感されます。

当センターでは、従来の指導方法の反省から、生徒に授業に対する興味と関心をもたせ、自主的な意欲的な学習態度の育成をめざした家庭科指導法の研究を続けてまいりました。

本年度は昨年度に引き続き「意欲的な学習指導の試み(2)」として、課題解決学習をとりあげ、所員と研修員と共同で実践研究を行いました。現実の生活の中から問題をは握し、自主的な調査、研究、実験、討議等によって解決し、創造の喜びを体得し、実践化に結びつける、いわゆる「学び方の学習」の研究で、それは生涯教育の中での学校教育の果たす役割でもあり、また、その方法により生徒は意欲をもって家庭科学習にとり組むのではないのでしょうか。

定期研修員10名のかたがたが、年間にわたり定期的に当センターに集まり、所員や外部講師から実験の指導をうけ、また、学習指導の具体的な方法について討議、検討し、その結果にもとづき実践研究をしてきました。

しかし、何分にも問題の大きさにくらべ、時間の制限のためにじゅうぶんな成果が得られなかったきらいがありますが、この資料を各学校における指導に直接又は間接に役立てていただければ幸と存じます。ご活用の上、きたんのないご批判をいただきたいと思えます。なお、今後一層の精進と充実を期したいと存じておりますので、よろしくご指導を賜りますようお願いいたします。

おわりに、校務多端の折、快く研修の機会と実践研究の場を与えてくださった校長先生や諸先生方に対して研修員とともに厚くお礼申し上げます。

昭和49年 1月25日

新潟県立教育センター所長 竹内豊治